



評価から支援へ

自閉症 e サービス全国ネット
2022-2023年度版



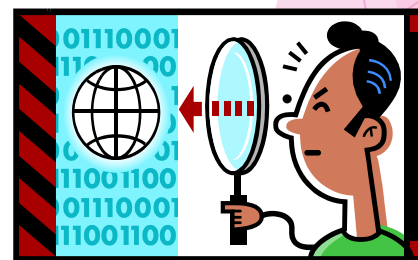
1. 診断と評価

- 2つの異なるプロセスから自閉症の人を理解する
 - <診断：diagnosis>＝自閉症かどうかを鑑別、自閉症の特性を確認する
 - <評価：assessment>＝一人ひとりの特徴や状態を把握する
- プログラムは、診断と評価に基づいて個別に組み立てる



評価の目的

- 教育方針や処遇・進路、提供するサービスを定める
- 指導の目標や教授手続きの決定
- すべてのプログラムは、妥当で包括的な個別の評価に基づいて、提供される
 - 思いこみで関わるというリスクを減らす
 - 効果的な教育的アプローチを示唆する
- 決まったカリキュラムがあるわけではない
 - その人にあっているかどうかは、まだわからない
- 指導方法やサービスの効果や妥当性を判定する



評価アプローチの比較

フォーマルな評価	・標準化されている ・スコアは統計処理される（発達年齢やIQなど）	・評価項目・スキルは限定されている ・人工的な場面設定 ・厳密な手続き
インフォーマルな評価	・可能性に着目する ・学習スタイルと芽生えスキルの確認 ・日常生活の場面	・課題の設定 ・一定の手続きはあるが標準化されていない ・苦手・弱い部分は評価されにくい
全般的な観察	・障害の質的側面を評価 ・全体像の把握 ・自由時間の様子	・標準化されていない ・印象やエピソードで語られる ・苦手・弱い部分を強調しすぎる危険性

- 自閉症に関するさまざまな行動を把握し、適格に評価するために、もっとも効果的な方策は・・・

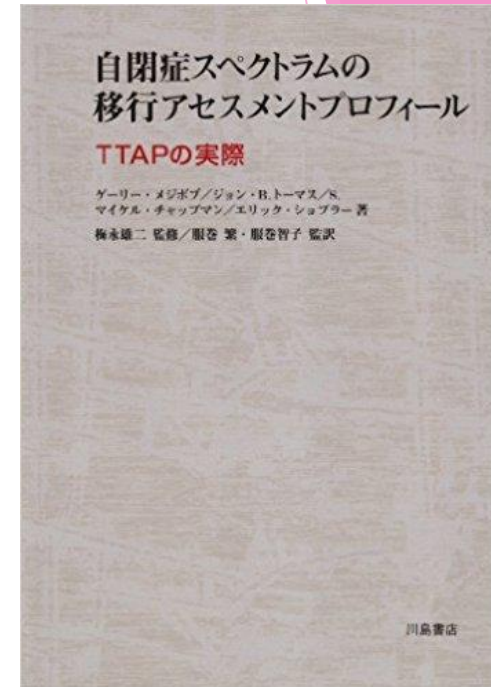


- **さまざまな評価アプローチを組み合わせ、それらを統合すること**

フォーマルな評価 (原版/日本版)

WISC-IV	児童用ウェクスラー知能検査第4版(2003/2010)	全検査IQと4つの指標得点（言語理解、知覚推理、ワーキングメモリー、処理速度）
CARS2	小児自閉症評定尺度(2010/2022-2023)	自閉症特性の度合いを15項目の観察から数値化
PARS®-TR	親面接式自閉スペクトラム症評定尺度 テキスト改訂版(-/2018)	57項目（幼児、小学生、中学生以上で項目が変わる）について3段階で評定。親に聞き取り。適応困難度を確認する
ADOS-2	自閉症診断観察スケジュール(2012/2015)	言語発達レベルと年齢別に5種のモジュール。主に社会性とコミュニケーションの質を活動と観察から評価
PEP-3	心理教育プロフィール 3訂版(2004/2007)	芽生えスキルの確認。6+4つの領域別検査と養育者レポート。発達年齢と発達/適応レベルを導く
TTAP	TEACCH移行アセスメントプロフィール(2007/2010)	卒業後の地域生活・就労に求められる6領域のスキル・態度について、直接観察、学校・作業所、家庭の3尺度で評価。 TTAPのインフォーマルアセスメントに続く

TTAP



『自閉症スペクトラムの移行アセスメントプロフィール—TTAPの実際』（川島書店）

インフォーマルな評価

- 個別化する
- 手近な材料を使い、よく観察する技術が求められる
 - 情報はより具体的で、個別プログラムを作成する際に役立つ情報を提供する
- 特に、できる（できそう）、得意、興味のあることをみる
 - なぜなら、その人が自立していったほしいから（そのための情報収集である）
 - できないこと、苦手なこと、嫌がることを強要しないように
- その人の理解の仕方・理解の困難さを確認する
 - 「何を期待されているか」を自閉症の人が理解できるように、場面・課題・指示の内容などを整理する
 - 構造化、課題の設定を考える
 - 適切な教授方法を検討する
 - …「ことば」で教えるのは難しい



評価の項目

- 日常生活場面や学習場面において、直接観察や聞き取りを通して、常に評価する
- 場合によっては、さまざまな活動や課題を支援者が意図的に設定し、本人の取り組みの様子を観察する（評価セッション）
 - 自閉症 e サービス「評価キット」
- 社会性：人への意識の向け方、人との関係の取り方
- コミュニケーション：理解と表現、やり取りの仕方
- こだわりの行動と想像力の特徴、独特の思考
- 注意の向け方、感覚の過敏さ、不安、強迫的な言動、からだの動かし方、手先の器用さ
- 学習/職業に関するスキルと態度
- 余暇活動、自由時間の過ごし方
- いわゆる「問題行動」の原因、引き金になるもの
- 医療的ケアの必要性 など

観察のポイント①

- 本人が課題に取り組んでいる様子をよく観察する
- 学習スタイル
 - その人なりの学習の仕方、認知の特徴
 - 現物に反応しやすい、細部にこだわる、パターン化しやすい、視覚的な整然さ、終わりの理解・・・
- スキル（技能的にできるかどうか）
 - 合格（P）→一人でできる
 - 芽生え（E）→できそうだから、積極的に教える
 - 不合格（F）→できないから、補う
- 興味関心、好き嫌い
 - 感覚的な反応：光、音、におい、肌触り・・・
 - 自発的、積極的、固執的な行動
 - 動機や余暇活動、将来の進路を考える情報に



観察のポイント②

- 学習態度
 - 学習（課題）への構え・前向きさ・受け入れの度合い
 - 教授者（支援者）に対する態度
 - 中断や変更、わからないことに対する耐性、など
- 理解の度合い
 - 課題の意味がわかっているか？
 - 教授者（支援者）の指示や手助けがわかっているか？
 - 見通しは持てているか？ 納得しているか？
- 表現の仕方
 - 教授者（支援者）に対してどのように表現するか？
 - 自発的なコミュニケーションの特徴
 - 困っているとき、やりたいとき、いやなとき・・・
- *自閉症の人のパフォーマンスや態度は、周囲のかかわり方や環境条件・課題設定などに影響を受けやすいことに留意する*

記録の取り方

- 客観的な記録を
 - 行動単位
 - 実際の動き（ことば遣い・動作）、表情や目線などを記録する
- 教授者の教示のしかた、教授者とのかかわり（相互作用）にも着目する
 - 教授者のプロンプトレベル、タイミング、距離
 - 教授者からの介入、修正に対する本人の反応
 - 本人のふるまいに対する教授者の対応
- 本人の取り組みの様子
 - 指示、課題、環境に対する反応
 - 自発的な行動・発言、興味関心、特異的な動き
 - スキル（特に芽生えスキルに着目する）
 - 学習スタイル、理解の仕方、表現の仕方
- 今後のプランや課題の手直しはあとで
 - 途中修正されることのストレス
 - 観察/評価に専念する
 - 記録に基づいて検討する

記録の取り方（例）

- 行動単位を意識し、客観的に記録をとる
- 教授者との相互作用にも着目すること
- 解釈や手直しはあとで



領域	評価課題	評価の結果(行動の記録)	今後の示唆
組立	ビーズ通し(10個)	教授者が本人に材料を渡し、「ビーズをひもに通してください」と口頭で伝える	(評価では、少ないプロンプトから始める)
	①	本人はすぐに課題かごの中のビーズを1つ取って、机をコンコン叩き続ける。ロッキングも激しい。ほとんど教授者と視線を合わさない	口頭での理解が難しい物に反応しやすい
	②	次に、教授者は、本人の目の前で「ビーズをひもに入れますよ」と言いながら、実際にやってみせる。教授者のやり方をチラッと見て、本人もビーズをひもに通し始める	モデル提示（実際にやってみせる）が有効
	③	特に指示していないのに、青→赤→黄と色別に最後までビーズを通す。取り組み中、本人からの発言は一切ないが、ビーズ通しが完成すると教授者の顔を見て、小さな声で「できた」と言う	色への意識が強い わかれば、最後まで取り組む 表現の限定

課題分析

- 活動の始まりから終わりまでを、小さな行動単位（ステップ）に分けて、時系列に並べて記述する
- 各行動単位ごとに自立の度合いを評価する
- どこが難しいのか、どこを手直しすればいいかを明らかにする
- いつも同じ手順、同じかわり方で、教えていくことができる



<食器洗いの課題分析(例)>

<u>1)食器を流しにもっていく</u>	<u>P</u>
<u>2)スポンジに洗剤をつける</u>	<u>F</u>
<u>3)食器をスポンジで洗う</u>	<u>E</u>
<u>4)食器を水洗いしカゴに入れる</u>	<u>E</u>
<u>5)スポンジをゆすいで片付ける</u>	<u>E</u>
<u>6)食器を布巾でふく</u>	<u>P</u>
<u>7)食器を食器棚に片付ける</u>	<u>P</u>

P=合格

E=芽生え

F=不合格

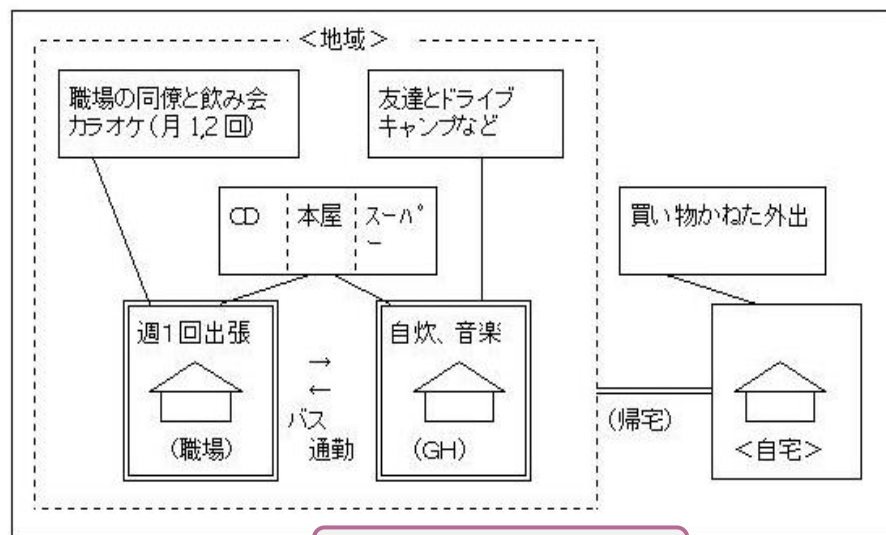
家族・関係者へのインタビューや記録のレビュー

- 生育歴、これまでの支援の経過
- 日課やそこでおこなわれている活動と、周囲の援助・関与の程度
- 利用している社会資源と活動内容、これから使えそうな資源
- 家族や周囲の人との関係、ニーズ、困難さ
- 例) 基礎調査票、生活地図、スケジュール調査、サポートブックなど



ふくしまサポートブック
(福島県発達障がい者支援センター)

自閉症 e サービス全国ネット 2022-2023 (禁複製)



生活地図の例

評価情報を個別プログラムに反映させる①



- 構造化
- 適切な課題の設定
 - 自立課題、1:1 課題、グループ活動
 - コミュニケーション/ライフスキルなどのプログラム
 - 合格、芽生えスキルにあわせる
 - 興味関心が高いものを、実用的なものを
- 得意なことを活かし、苦手なことをカバーする
 - 場面設定（特に休憩エリアと勉強エリアを整備する）
 - スケジュールの提示、切り替えのシステム、「終わり」の理解
 - 視覚に強い、具体的な事柄や1対1対応が強い
 - 曖昧な指示、乱雑な環境、不快な刺激に弱い
 - 動機付けの工夫
 - コミュニケーション、社会性（対人相互性）、想像力の困難さへの配慮

評価情報を個別プログラムに反映させる②

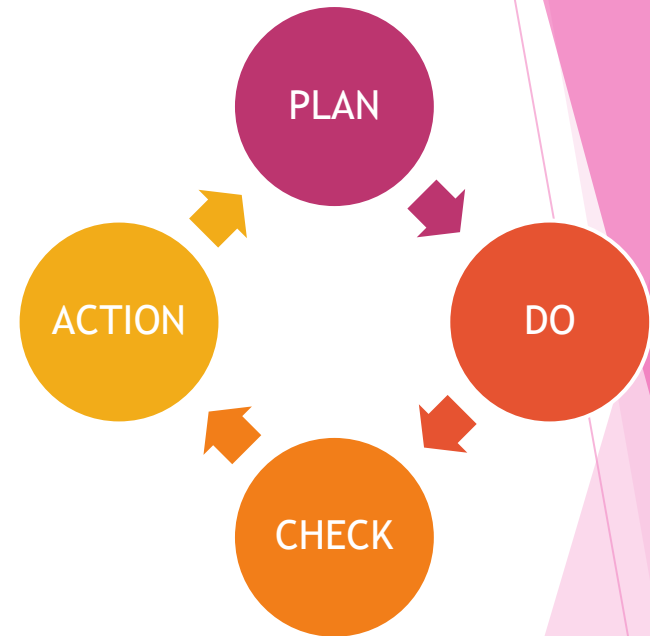
- 処遇や進路＝今後の地域生活に向けて
 - 適切な学校、職場を選ぶ
 - 個別プログラム：優先課題を整理し、関係者が連携しながら支援に取り組む
 - 職業、余暇、コミュニケーション、対人行動…
- 日々のかかわり方や「行動上の問題」への対応
 - 場所と活動の整理
 - 家族・支援者間での評価情報の共有
 - 冰山モデルと行動マネジメント
 - 対応やかかわり方の統一
- 大事なことは…
 - 支援者が、その人のことと、その人を取り巻く状況や関係者のことをよく知って、協力すること



グループホーム

2. 個別プログラム (PDCAサイクル)

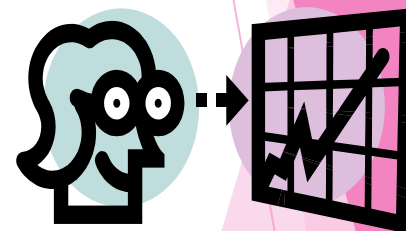
- 初期評価と支援目標の設定
 - 基礎調査票、聞き取り、評価セッションなど
 - 無理のない目標設定、優先性の検討
- PDCAサイクルによる支援の継続
- 目標は、豊かな暮らし
 - 生活の質の向上
 - 自立と社会参加、自己実現
 - ノーマライゼーションの実現



★評価は常に必要
★PDCAを繰り返す
★より良いものへ（目標に近づく）

個別プログラムの意味

- 個別支援計画／個別教育計画
- 一人ひとりにとって大事にすべき支援目標と優先課題を明らかにする（だから具体的に書く必要がある）
- そのことを関係者が共有し、協力関係の確立と支援方針・対応の統一をはかる
- 計画的に支援を進めていく
 - 本人だけに求めるものではない
 - むしろ支援者や周囲がやるべきことを明らかにする
- 実生活に役立つスキル・態度を教える
- 本人を取り巻く環境・人にも積極的に働きかけていく
- 本人・家族にとって意味のある支援を継続していく
- 協力と連携
- 人生全般にわたる支援である



①学習/職業

- ・適切な学習課題
- ・職業スキルの評価など

②コミュニケーション

- ・適切な表現のしかた
- ・わかりやすい伝え方など

③家事、身辺自立

- ・身の回りのこと
- ・家でのお手伝いなど

④遊び、余暇活動

- ・適切な遊び・余暇の過ごし方など

⑤対人行動、地域活動

- ・集団場面での適応
- ・地域での振る舞い方など

⑥行動管理、医療ほか

- ・困った行動への対応
- ・服薬調整など

	支援目標	具体的な実施の計画やアイデア
学習／ 職業	☐	☐
コミュニ ケーショ ン	☐	☐
家事 身辺自立	☐	☐
遊び 余暇活動	☐	☐
対人行動 地域活動	☐	☐
行動管理 医療ほか	☐	☐

今期、重点的に取り組みたい
テーマ、目標

個々のテーマ・目標における、具
体的な実施計画、支援ツールなど

課題選択における優先性の検討

- 本人・家族（周囲）にとって最も重要なテーマから取り組む
- ①学習の可能性、発達の適切性
 - 芽生えスキルの重視
 - 発達レベルにあっていること
- ②生活場面での実用性・機能性
 - 生活のいろいろな場面で使える、暮らしに活かせる
 - 年齢相応、本人や家族の好み
- ③自立性・成功の可能性
 - 無理のない課題設定、直接の援助や監視がなくても一人でできる、安全、コストパフォーマンス、緊急性
- ④本人・家族の希望
 - 本人の意志を尊重する（本人が納得している、やりたがっている）
 - 家族がプログラムに協力してくれる

活動内容の検討



身辺自立・家事	着替え、歯磨き、入浴、トイレ、身だしなみ 掃除、洗濯、調理
学習	アカデミックスキル（教科学習）、研究テーマ
職業	自立課題、分類・仕分け、組立・分解、パッケージング 事務仕事、庭仕事、倉庫・荷物運び、デリバリー
余暇・地域活動・運動	アート、音楽、散歩、体操、スポーツセンター、ネットの 使用、買い物、地域イベントへの参加、電話の使用
健康・生活管理	金銭管理、食事管理、居室の片づけ、予定表の作成、病院 の利用、生活記録をつける
コミュニケーション、社会 性、セルフアドボカシー	援助要請、感情表現、ソーシャルクラブ、面接や自己紹介、 悩みを相談する、自己理解のワーク
行動マネジメント コーピング	スケジュールの使用、感覚グッズ、カムダウンエリアの利 用、リラクゼーションエクセサイズ

計画書の書き方（例）



課題	食器洗いを自立してできるように	
理由	・ 食器洗いのスキルがある ・ 水が好き ・ 家族の希望 ・ 家庭で毎日実施できて、本人の1つの役割になる ・ 今後、調理や買い物の活動に広げたい	
場面設定	<いつ> 毎夕食後 <誰が> 主に母親が教える <どこで> 台所の流し <何を> お皿だけ洗う	
方法	・ 食器洗いの場면을構造化する ・ 課題分析をおこない、教授のポイントを絞る（モデリングと指さしを中心にして教える） ・ 洗剤の量を調節するための視覚的な手がかり（キャップを使う、スポンジの明示）	
期間 評価	・ 6月～7月 毎夕食後に実施し、取り組みの様子を記録する ・ 自立の度合いを確認する（達成度評価）	

現場での日々の取り組み①



- 自閉症の特性・学習スタイルを確認する
- 不安・混乱を減らす
- 個別化された評価から始める＝その人のことを良く知る
- 構造化による支援
- 具体的な活動・課題を用意する
 - 学習スタイルと興味関心を活かす
- 新しいことは1対1で教える
- 自立のための教授
 - 支援者に依存させるのではない
- コミュニケーションへの配慮
- できるようになったら、教室/作業場の外へと般化する
- 変化・変更を系統立てておこなう

現場での日々の取り組み②

- 過ごしやすい生活環境
- 安定した日課と場所の用意、適度な活動があること
 - 既存の活動や場面を、当事者本位に組み替える
 - 行事や集団活動の見直し
 - 自由時間・休憩時間の過ごし方の整理 など
- 支援者間で対応の統一をはかること
 - 嫌がることをしない
 - 優先順位の確認
 - 誰とでもかかわれるように、協力と連携
- 行動上の問題に取り組む
 - 冰山モデル
 - ふだんから予防に努める：消火の前に防火
 - 計画的、組織的に対処する
- 情報をオープンにし、常にアイデアを求める





評価キットの活用

自閉症 e サービス全国ネット
2022-2023年度版

自閉症 e サービス全国ネット 2022-2023 (禁複製)



1. 評価キットとは

- 自閉症 e サービスが開発・編集した、現場で簡易に使える評価課題のパッケージ
 - 50個程度の評価課題・活動
 - 1時間～1時間半
 - 現場で期待されるさまざまなスキル・態度を評価する
- 個別プログラムを検討するための基礎的情報を提供する
 - 新規利用者への初期評価のツールに使える：基礎調査票＋評価キットを組み合わせ
 - より妥当で実践的な支援計画の立案に寄与する
 - 施設コンサルテーションや問題行動への対応においても、積極的に活用できる
- 標準化された心理検査ではない。スコアの集計は目安であり、本人の取り組み方の質的傾向と有効な現場支援の手立てを確認することが目的

評価キットの構成①

- 青年・成人期用と幼児・学齢期用の評価課題のパッケージ
 - 知的障害の程度によって3種類＋家事・余暇版
 - 現場ですぐに取り組みできるようにアレンジされている
 - 必要に応じて評価課題を追加したり、減らしたりしてもよい

知的障害の程度	青年・成人期	家事・余暇版	幼児・学齢期
重度・最重度	A 1	D&L	B 1
中度・軽度	A 2		B 2
高機能	A 3	—	B 3 (小学生)



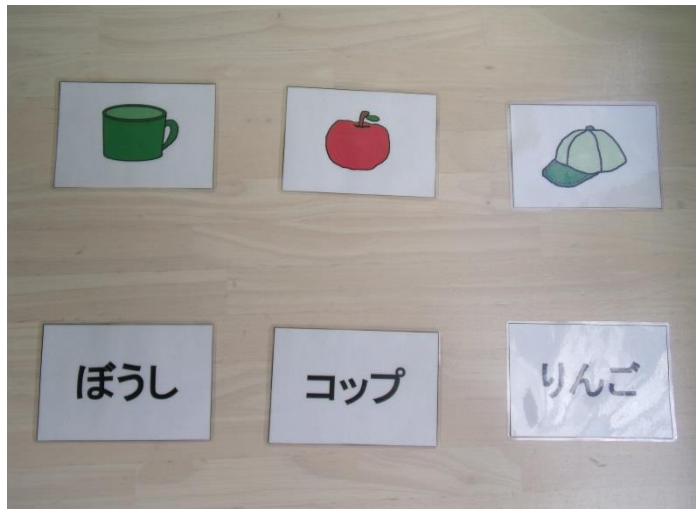
評価キットの構成②

- 評価キットには、さまざまな領域の評価課題が用意されている

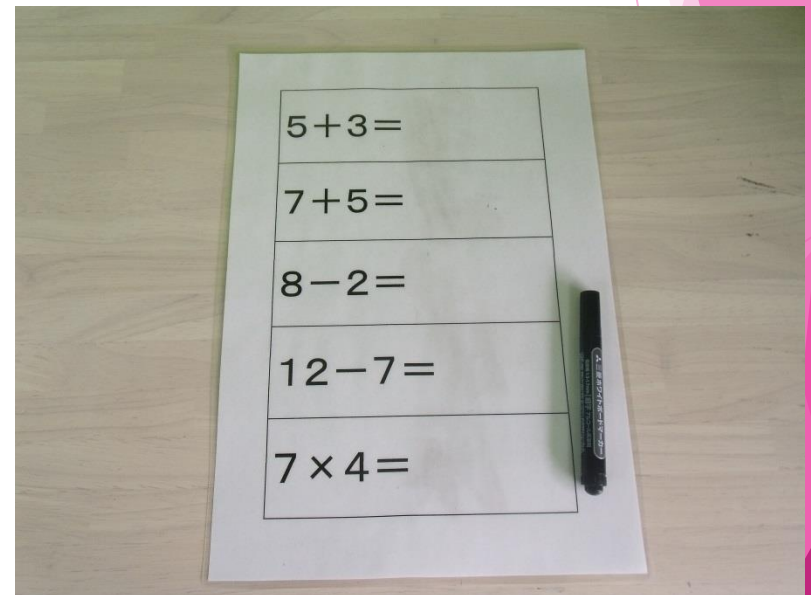
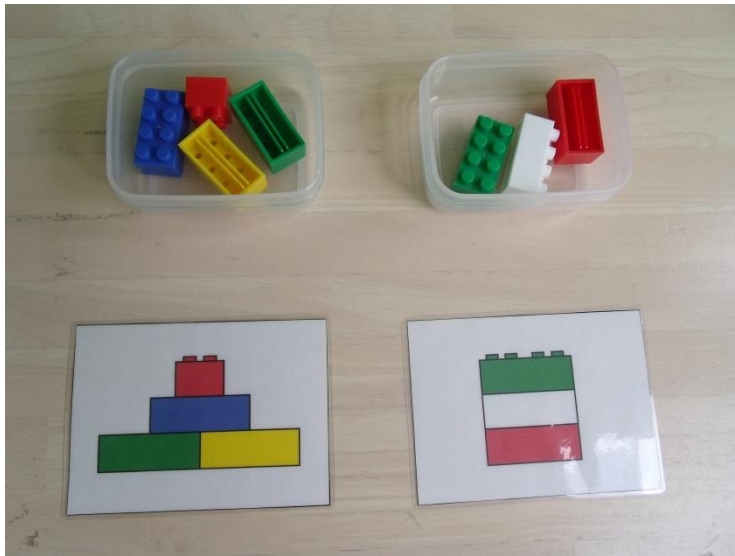
理解レベル(Cog)	基本的な認知レベル	絵、文字、時計等の理解
学習／職業スキル(V)	学習／職業課題	組立、分解、計算等
対人行動(B)	人とのかかわり方	挨拶、用件を果たす等
余暇スキル(L)	自由時間の過ごし方	一人で休憩、トランプ等
コミュニケーション (Com)	本人とのやり取り (特にことばの評価)	言語指示、注意書き 絵の説明等
自立のためのシステム(S)	自立して取り組むための システム	スケジュール、ワークシ ステム、タイマー

- 「補足の課題」「代替の課題」
- その他の課題を追加してもよい（日中作業や学校の宿題など）

■ 理解レベルの評価



■ 学習/職業スキルの評価



■ 対人行動の評価

2) 挨拶 (B)

セッションの最初に名前を呼んだあと、「こんにちは。〇〇（検査者の名前）です。今日はよろしくお願いします」と検査者のほうから挨拶をする。

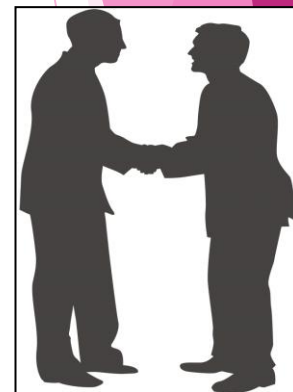
補足の課題として、「握手をしましょう」と口頭で言い、本人の反応をみる（検査者のほうから先に手を出さず、本人がどのように握手をするか様子を見る）。

- 0点 検査者からの挨拶に対して、検査者の顔を見て適切に応答する。
- 1点 検査者からの挨拶に対して、検査者の顔を見てある程度応答するが、言葉や振る舞いが不十分である。
- 2点 検査者からの挨拶に対して、視線を合わそうとしないなど、不自然な反応をする。
- 3点 挨拶に対してほとんど応答しない。あるいは、かなり不適切に反応する。

40) 対人行動 (B)

セッション中の検査者に対する行動・態度を観察する。

- 0点 自発的に検査者に微笑みかけたり穏やかに話しかけたり、自分から挨拶をするなど良好な対人行動を示す。また、一度も怒ったり自傷したりという激しい攻撃的な行動はなく、落ち着いてセッションに取り組む。独り言や空笑、作業中の立ち歩きなど、相手に奇異な印象をもたらす常同的・衝動的な行動は2回以下で、検査者が注意するとすぐに収まる。
- 1点 激しい攻撃的な行動は見られない。また、相手に奇異な印象をもたらす常同的・衝動的な行動が3～4回見られたが、検査者が注意するとすぐに収まる。
- 2点 激しい攻撃的な行動が1～2回見られた。あるいは、常同的・衝動的な行動が何度か見られた。
- 3点 激しい攻撃的な行動が3回以上見られた。あるいは、常同的・衝動的な行動が頻繁にあり、検査者が注意してもなかなか収まらない。



■ コミュニケーションの評価



■ 余暇、システムの評価



■ 高機能向けの評価課題



＜地図の理解＞

質問1：「駅はどこにありますか？」
(指で指示してもらおう)

質問2：「病院の向かい(前)には何がありますか？」

質問3：「駅から会社までの行き方を教えてください(線を引いてください)」

質問4：「駅から会社に行く途中には何がありますか？」

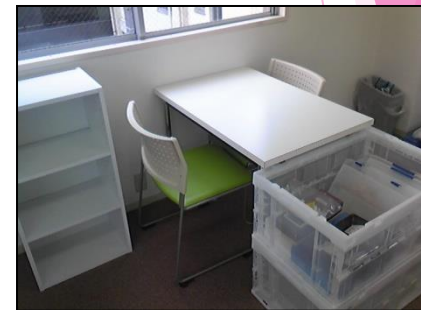
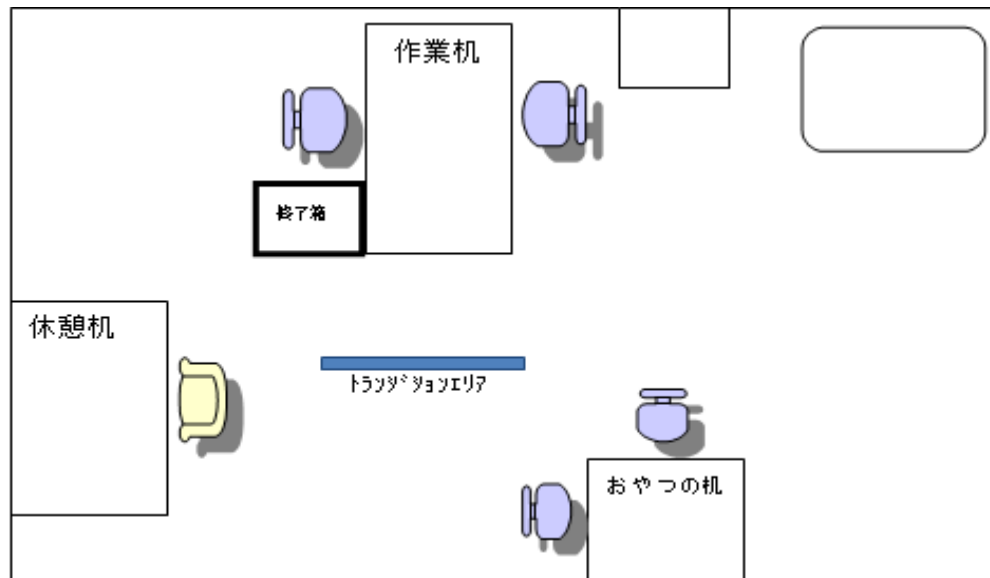
質問5：「この道が道路工事で通れません。駅から会社に行くにはどこを通ればいいですか？(線を引いてください)」

2. 評価セッションの実施

- 評価キットを選ぶ
 - 本人の年齢、知的レベルや学習スキルを目安にする
 - 何を評価したいか、テーマを明確にしておく
 - 例) 新たな活動の組み立て、関係者間での評価情報の共有、進路の検討、問題行動への対応
- 本人・家族への説明と予告
- 場所の設定（作業/勉強・休憩・おやつ）
 - 可能であれば、ビデオ録画する
 - 評価課題のセッティング
- 実施の順番とタイムスケジュールの確認
- 検査者は、評価セッションの実際の進め方を事前にシミュレーションしておく（実施マニュアルで確認する）

場所の設定

- 小会議室などの独立した空間が望ましい
- 作業（勉強）と休憩（遊び）・おやつ場所を用意する
- 場合によっては、スケジュールを提示するトランジションエリアを用意する
- 事務所、手洗い場、トイレ、自動販売機が近くにある



評価セッション：実施上の注意点①

- 実施マニュアルに基づいて実施する
- 準備
 - 場所を整理する：机の大きさ、座る場所、課題を置く場所、周囲の動き・物、照明、騒音
 - 課題の出し方・順番：簡単なものから始める、事前にシミュレーションしておく
- 予告をする、見通しを伝える：どれだけするか、いつ終わるか
 - 事前に説明する（簡潔に）：「次は〇〇をします」「これが終わったらおやつにしようね」、スケジュールを使う、課題を見せる
- 注目させる
 - 注意のひきつけ方：名前を呼ぶ、音を鳴らす、課題を見せる、材料を渡す
 - 衝動性への配慮：「手はおひざ」、課題との距離、周囲の人の動き・物・窓や光などの刺激

評価セッション：実施上の注意点②

- 教示と観察＝評価セッションでは、原則、少ないプロンプトから実施する
 - 言語指示→指さし・ジェスチャー→見本・モデル→手添え
 - どういう手助けが必要か、どういう教示方法が有効かを確認する
 - プロンプトレベル、タイミング、距離を意図的に操作する
- 終わり方を決めておく（終了箱etc.）→次の「始まり」を伝える、すぐに次の課題を渡す、スケジュールを確認する
- 介入、修正：自閉症の人が混乱しないように、達成感もてるように、見通しがもてるように
 - 有効な褒め方は、できあがりかわかっているか、興味のもてるものは何か、など
 - エラー修正は慎重に（やり直しや途中介入は嫌がる・混乱する）、本人が困っていることを助ける

実施マニュアル（例）

8) 数字の確認 (Cog)

「1」「2」「5」「8」「20」の数字カードを使う。

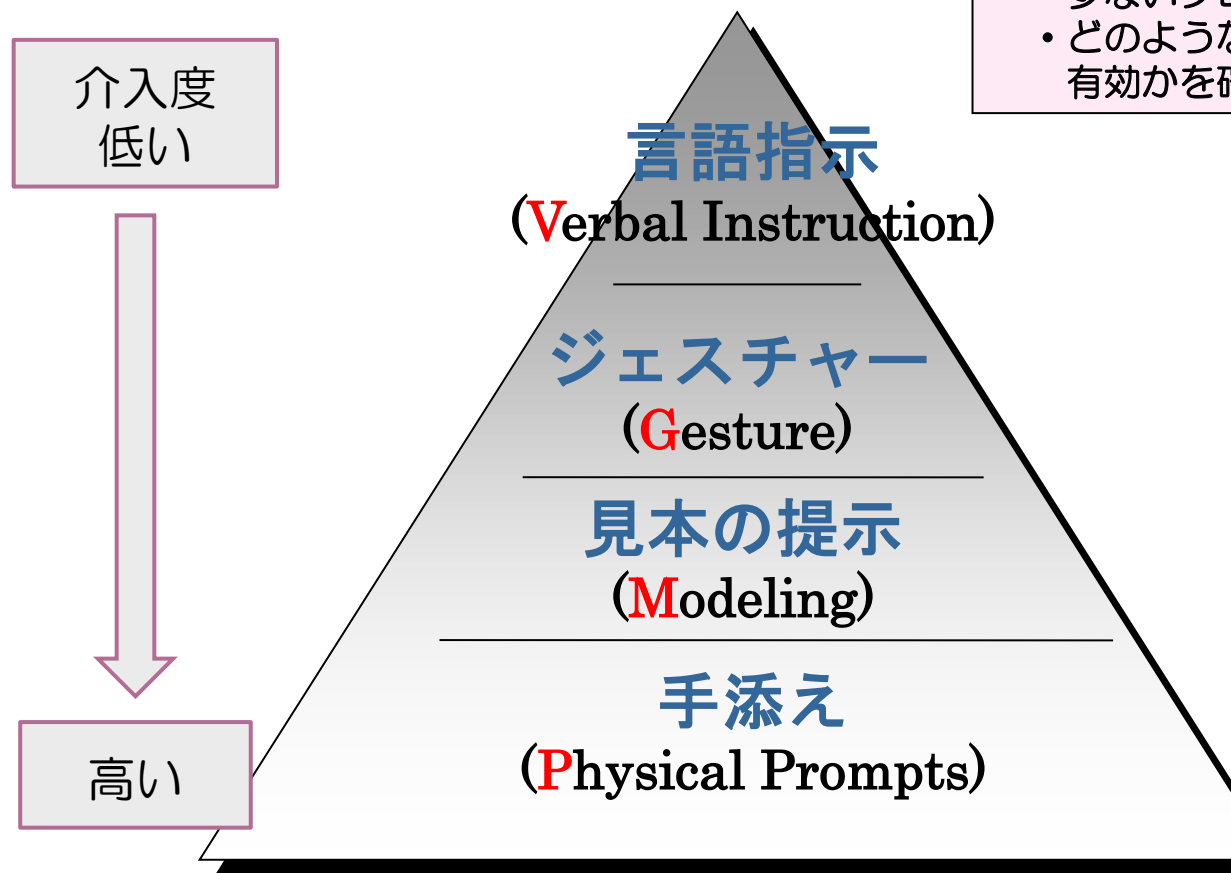
最初に、数字カードをバラバラに並べ、「ここにある数字を全部読んでください」と指示し本人に答えさせる。

次に、数字カードをバラバラに並べた状態で、「小さい順に1から数字カードを並べてください」と口頭で指示する。本人が取り組まなかったり間違いが見られたりする場合は、1度だけ実演でカードを「1」、「2」まで並べ。元に戻して改めて本人に取り組んでもらう。

補足の課題として、色チップを10枚程度本人に渡し、「2」と「8」のカードを机に置き、「この枚数のチップをここに置いてください」と指示し、本人の取り組みの様子を確認する。

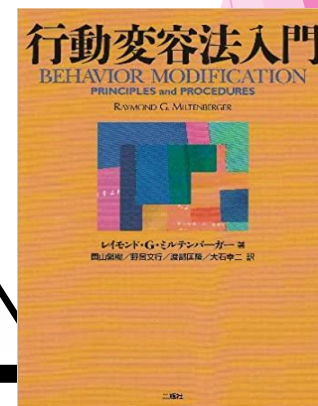
- 0点 数字カードをすべて正しく読む。また、実演がなくても、数字カードを1から順番に正しく並べることができる。
- 1点 数字カードをすべて正しく読む。また、実演があれば、数字カードを1から順番に正しく並べることができる。
- 2点 数字カードを読むときに間違いや不明瞭な答えが1回ある。あるいは、実演があっても、数字カードを正しく並べることができない。
- 3点 数字カードを読むときに間違いや不明瞭な答えが2回以上ある。また、実演があっても、数字カードを正しく並べることができない。質問に対して全く答えようとしない。

指示（プロンプト）の階層

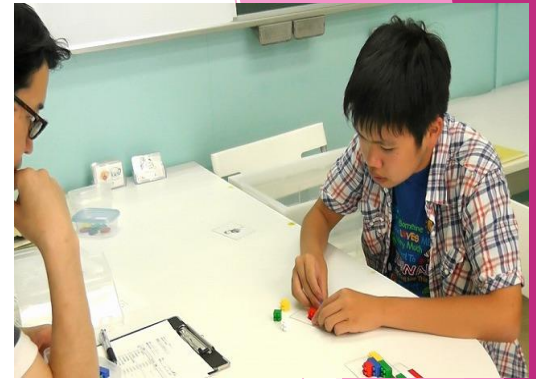


＜評価セッションでは＞

- 少ないプロンプトから介入する
- どのようなプロンプトが必要・有効かを確認する



実際の進め方（A1の場合）



- 基本的に、課題①から順番に実施する
 - 実施の順番は柔軟に変更（追加・削除）してよい
- あいさつ：握手、理解レベルの評価、見通しを伝えるなど
 - 休憩（必要なければそのまま作業1に移行する）
- 作業1：学習/職業スキル、ワークシステムの使用
- 休憩：一人で休憩、タイマーで作業に戻る
- 作業2：流れ作業、中断、用件を果たす、時計やカレンダーの理解など
- スナック：スケジュールの使用
- ゲーム、お話、終了の挨拶
- セッション終了後に、本人から感想を聞いたり、保護者や付き添いのスタッフから普段の様子を聞き取る

3. 評価セッションのまとめ

- 評価キットの場合、要支援の度合いで0～3点の4段階で評点する
 - 0点＝自立、適切
 - 1点＝適切な視覚支援や環境調整をおこなうことで、自立の可能性がかなり高いことを示唆する
 - 2点＝適切な視覚支援や環境調整をおこなうことで、自立の可能性がある程度見込めることを示唆する（かなりの配慮が必要）
 - 3点＝適切な視覚支援や環境調整をおこなえば、不適切な行動をある程度減らすことが可能である。あるいは、本人によりあった代替の課題を用意したり場面状況を変えたりすることを検討する
- 能力的・技能的にできないのか、課題の意味が理解できていないために間違ったり混乱したりしているのかを見極めること
- 評価基準における「適切」「不適切」とは、通常、社会的に認められる年齢相応の行動であるかどうかで判断する

評価セッションのまとめ（2）

氏名：_____

年齢：_____（_____年 _____月 _____日生）

検査者・記入者：_____

記入日：_____年 _____月 _____日

	項目	0-1-2-3	支援プラン
理解 レベル (Cog)	5) 文の構成 6) 単語の理解 7) 日常生活上の知識 8) 数字の確認 25) 時間の問題 26) ルールやマナーの理解 27) 簡単な算数問題 28) 簡単な読解問題	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	◎理解できる伝え方、視覚的の手がかり
職業 スキル (V)	9) ブロックの組立て 10) 分解作業と道具の使用 11) 新聞記事の切り抜き 12) ワープロの使用 15) ハンコ押し 16) 計算問題 17) お金の計算と袋入れ 20) 封筒入れ 23) 紙を折る 24) 定規の使用 34) テーブル拭き	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	◎本人に適した職業課題、職種
対人 行動 (B)	2) 挨拶 21) 作業の追加と中断 22) 用件を果たす 30) 手洗い 31) おやつの食べ方 40) 対人行動 41) 感覚刺激 42) 物への反応 43) 不安や不満、体調不良	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	◎対人行動・職業行動で配慮すべき点

その人のことをより良く理解する

- 評価セッション・・・本人とのやり取りを通して
- 自閉症の特性
 - 社会性、コミュニケーション
 - こだわりの行動・思考、想像力の障害
 - 感覚、その他
- 学習スタイル
- スキル（合格－芽生え－不合格）
- 学習態度
- 興味関心、好き嫌い
- 生活スタイル
- 生活上の困難さ
- 家族の希望、本人の困りごと
- 評価情報は常に更新される

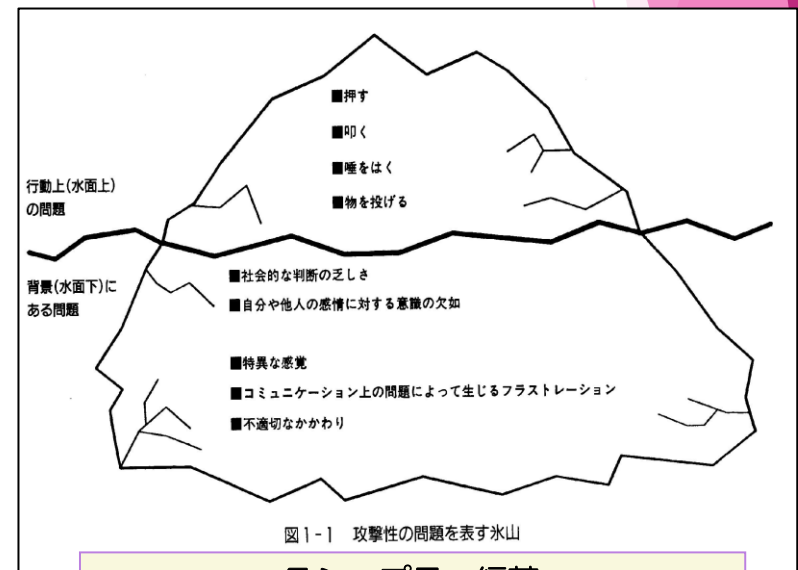


図1-1 攻撃性の問題を表す氷山

E.ショプラー編著
『自閉症への親の支援』（黎明書房）より

学習スタイルの把握①

- 顕在的学習（vs 暗黙的学習）
 - 明示的に示されることはよくわかる／暗示的な指示や直感的な理解は苦手
 - ルーティンになりやすい／パターンの学習し変更や応用ができない
- 視覚的な情報処理（vs 聴覚的な情報処理）
 - 映像で理解する、見たとおりに取り扱う、視覚的整然さを好む
 - 言葉を聞いて理解することは苦手
- 細部への焦点・注意の固着
 - 部分に注目しやすい、全体を捉えたり概念化することは苦手
 - 特定の事柄に、狭く強く意識を向けやすい
- 心の理論・社会的認知が弱い
 - 相手の気持ちを察したり、周囲の状況を把握してふるまうことが苦手

学習スタイルの把握②

- 実行機能の問題（順序づけと組織化の困難さ）
 - 時間の流れを追うことが難しい、終わりが理解できない
 - 物事の優先順位がつけられない、計画的に遂行できない
 - 材料を整理して配置できない、複数の手順があると混乱する
- 限定的な興味、高められた動機付け
 - 興味関心の偏り
 - 好きなことはとてもよく取り組む
- 感覚の過敏さ・鈍感さ
- 体の動きがぎこちなかったり、手先が不器用なことがある
- 般化や応用が苦手
 - その場で学んでくとは取り組めても、別の場所では取り組まない
 - 状況に合わせてスキルを使い分けることは苦手

4. 適切な課題設定を導く

- 課題（タスク）とは・・・主に、ワークエリアで取り組む、本人が「やるべきこと」（「学習」「作業」「お手伝い」など）で、周囲からの期待に応じることを学ぶ
 - 合格・芽生えのスキルにあわせる、学習スタイルと興味関心を考慮する（評価情報に基づく）
 - 良好な学習態度の習得を大事にする：面白い、手応えがあること
- 初期は特に、さまざまな領域の課題を用意する
 - 職業前課題/学習課題/ライフスキル
 - 社会性やコミュニケーション、柔軟性など
 - 1:1課題で学び→できるようになったら自立課題へ
- 生活場面へと広げていく
- 本人・家族の希望と機能性・実用性を重視する
- 再構造化を続ける

評価セッションから自立課題へ

- 評価セッション⇒優先性の検討⇒1:1課題
 - 評価セッション：スキル・学習スタイル・興味関心などを評価し、最低限の教授で、自立して取り組めるかどうかを確認する
 - 1:1課題：本人にあった課題を1:1で教える
- 自立課題へ
 - できるようになったら、自立エリアで一人で課題に取り組む
 - 自立課題では、達成感・自己効力感を大事にする
 - 1:1課題と自立課題を組み合わせ、課題を発展させていく
 - さまざまな課題に無理なく取り組めるようにし、前向きな学習態度を養う



評価課題・自立課題の領域

- 初期は、さまざまな領域の課題を用意し、本人のスキルや学習スタイルを確認する
- 職業前課題のリスト（例）

組立・分解・道具の使用	物と物をつなげる、はずす
分類・照合	物と物のマッチング、比べる、仕分け
パッケージング	物を袋や箱に入れる、詰める
アカデミックスキル	読み・書き・計算などの基礎学力
事務	デスクワーク全般
家事／余暇	家事活動、余暇活動に関すること

- 学校・家庭・地域場面で取り組む課題（例）

教科学習	国語・数学・社会・理解・生活・語学
社会性、コミュニケーション	会話、援助要請、グループ活動、係活動
ライフスキル、地域生活	家事、身辺自立、買い物、公共機関の利用
コーピングほか	柔軟性、リラクゼーション、相談する

1 : 1 & 自立課題評価シート

氏名: _____

作成日: ____/____/____

作成者: _____

領域	設定した課題	評価結果		評価から考えた自立のためのアイデア	
		スキル	興味関心、取り組み方の特徴	課題の工夫	適切な教え方

スキル: P=合格、E=芽生え、F=不合格

視覚的構造化: 指示/暗黙/

何に取り組んでもらうか
課題を明確にする



取り組みの様子を
よく観察する



今後の支援、
工夫の検討

適切な課題設定のためのステップ

①初期の評価課題・自立課題＋追加の課題＋家族からの情報

プットイン、マッチング、分類、組立・分解
パッケージング、読み・書き・計算
物を使った遊び、人との遊び、模倣

＜ワーク→プレイ＞の見通し
終了箱、左から右のワークシステム
タイマーの理解

②自立課題・1:1課題のヴァリエーションを増やす

本人・家族の希望、興味関心
日常生活に必要なこと、年齢相応

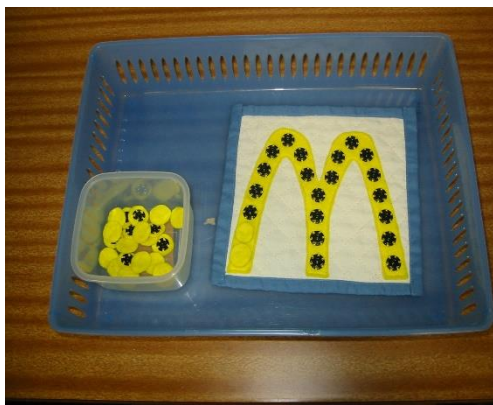
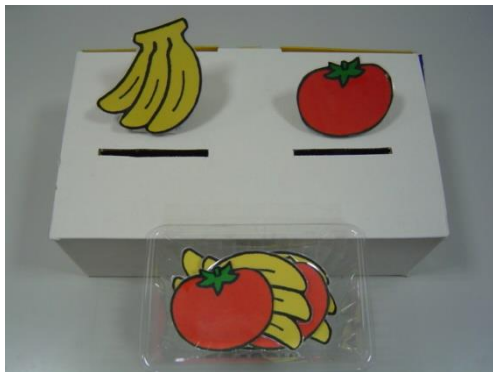
良好な学習態度の形成
課題の中に視覚的指示を組み入れる

③課題の発展と日常生活場面への展開

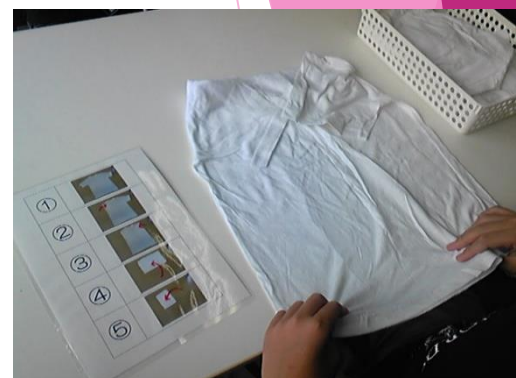
職業(前)課題、ライフスキル、
コミュニケーションなど

机上課題から生活場面に取り組みを広げる
(家事活動、グループ活動など)

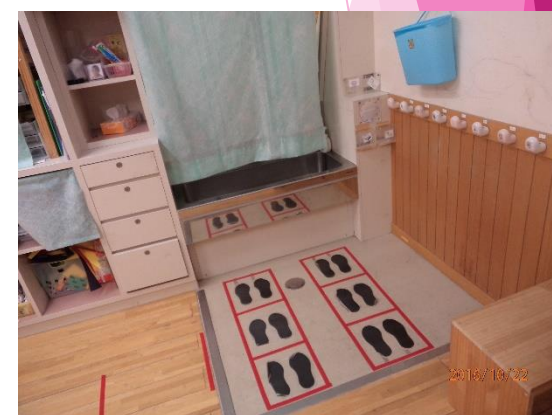
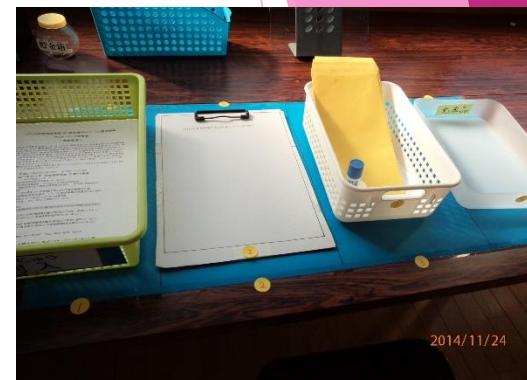
①初期の自立課題



②課題のヴァリエーションを増やす (課題の中に視覚的指示を組み入れる)



③課題の発展と日常生活場面への展開



日常生活における支援を続ける (PDCAサイクル)



自立（Independence）の意味

- 全て一人でできないといけない、ということでない
 - 自立を強要してはいけない
- できないことは支えられ、できる限り一人でできる機会を増やしていくこと
 - 支援者に依存させてはならない
- それは、「普通の生活」に不可欠なこと
- 他人に頼った生活から、自身の可能性を最大限に発揮して、期待される役割を果たし、自分是可以るんだという自己効力感と自尊心を持って暮らすために
- 獲得したスキルを実生活（地域社会）へ般化させる
 - 実生活（地域社会）での実用性を重視する
 - そのことで「生活の質」が向上していくように

